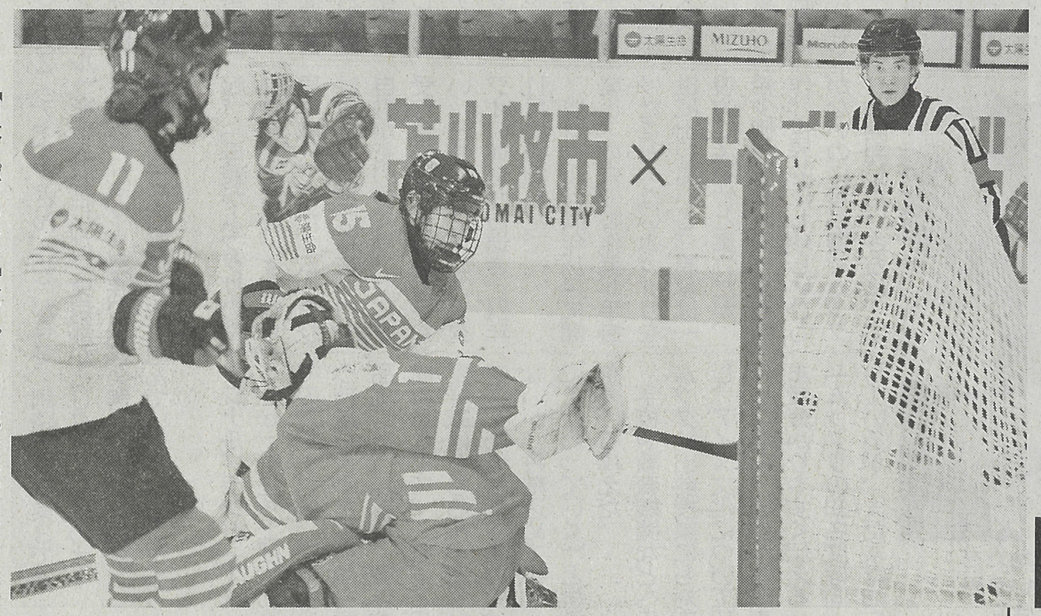
スマイルJ 6発圧倒

五輪アイホ出場決定

堅守で得点与えず

【苫小牧】アイスホッケーの2026ミラノ・コルティナ冬季五輪女子最終予選（グループG）は大会2日目の8日、nepiaアイスアリーナで2試合を行った。日本（世界ランキング7位）はポーランド（同20位）と激突し、第1ピリオドに6得点を挙げる猛攻を浴びせ、6―0で勝利した。一方のフランス（同13位）と中国（同12位）の試合はフランスが4―1で60分勝ちしたため、日本が9日の中国（同12位）との最終戦に敗れたとしても、勝ち点や直接対決の差で他の3カ国を上回るため、早くも五輪出場が決まった。日本勢での五輪出場決定一番乗り。（鈴木大聖）



【日本―ポーランド】第1ピリオド15分に得点を決めるFW浮田（中央）

浮田覚醒 ベストプレーヤーに

○…五輪切符獲得はもちろん「3試合圧倒して勝つ」という合言葉の下、試合に臨んでいる日本。第1戦のフランスには7―1、第2戦のポーランドにも6―0で貫禄勝ちする有言実行の結果を残し、4大会連続5回目の五輪出場を決めた。

この日は第1戦のフランス戦で眠っていた日本の点取り屋、FW浮田留衣（Daishin）が目覚めた。第1ピリオド15分には相手GKと2対1という数的優位の局面でFW志賀紅音（ルレア＝スウェーデン）とゴール前で連携してパックを沈めると、18分には自身のシュートリバウンドを押し込む粘り強さを発揮。計2得点を挙げてゲームベストプレーヤーに選出された。

初戦は緊張で思うようにプレーができていなかったことから「きょうは落ち着いてプレーすることを一番に考えた。それがゴールにつながった。一安心」と胸をなでおろした。「大会に入る前は不安な気持ちでいっぱいだったが、やるべきことをやって2戦で（五輪を）決めることができてうれしい。ただ、自分たちの目標はあくまでも全試合で圧勝することなので、スタートからしっかりやっていきたい」。2014ソチ五輪に最年少で出場した頃から常に第一戦で戦い続け、今ではベテラン。若手と共に成長を重ねる28歳は抜かりなく、最終戦への闘志を燃やしている。

日本が2戦連続の快勝で五輪切符獲得。第1ピリオド5分、FW前田が右サイドからきたパスに中央でワンタイムで合わせて放ったシュートが決まり先制に成功すると、以降は15分と18分にFW浮田が得点するなど一挙6得点を量産し、試合の大勢を決めた。第2ピリオド、第3ピリオドで追加点は奪えなかったものの、相手にシュートまでたどり着かせない堅い守りで最後まで得点を与えず、零封勝ちした。

日本 6（0―0、0―0、6―0）0 ポーランド

▼得点者【日】①前田（三浦）1P5分54秒②志賀紅（伊藤）1P11分23秒③輪島（前田、三浦）1P14分12秒④浮田（志賀紅、志賀葵）1P15分32秒⑤輪島（三浦）1P15分43秒⑥浮田1P18分26秒

▼シュート数【日】43（17、14、12）【ポ】5（2、2、1）

▼反則【日】1【ポ】1

フランス 4（0―0、1―0、3）1 中国

【日本―ポーランド】勝利を収め、笑顔を見せるDaishin勢。右からFW野呂莉、DF佐藤、FW多田、FW野呂里

野呂姉妹「笑顔」はじける

○…これまで対戦経験がなく、世界ランキングでは格下のポーランドとの一戦。60分勝ちすることができればミラノ行きが確定する中、3次予選で他を寄せ付けずに勝ち上がってきたダークホースに6点差で完封勝ち。駆け付けた1609人の観客に五輪切符獲得という吉報を届けた。

第3セットで出場するFW野呂里桜とFW野呂莉里はDaishinに所属する双子の姉妹。姉妹そろってフル代表に選出されたのは2023年4月の世界選手権以来2度目で「お互いに思っていることは分かる」という姉妹特有の強みを生かし、何度も好機を演出し、ゴールを脅かしている。

姉の里桜は「Daishinでも一緒に組んでいるので、莉里がいると気楽にできる」。妹の莉里は「アドバイスもくれるので、一緒に高め合うことができている」と見つめ合いながら照れくさそうに話した。

日本の躍進を支える姉妹は五輪切符をつかみ取って笑顔をはじけさせたが「決め切れてなかった」と反省を欠かさない。「次の中国戦ではゴールをする」と口をそろえ、健闘を誓った。